

福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（12月分）

留学先大学：ハンブルク大学

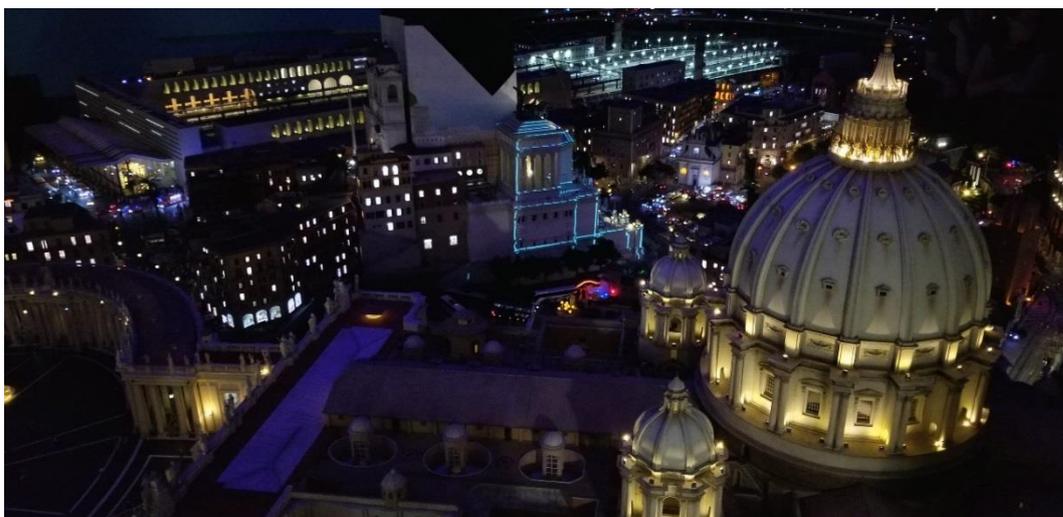
氏名：長田優輝

こんにちは、長田優輝です。



今月で2019年も終わりですね。ついに令和元年には日本の土を踏まないということになりました。若干の寂しさを感じます。

留学も終わりが見え、いよいよ帰国の手続きや、帰国後の動きを真剣に考えなければならなくなってきました。さらには後期の一つの目標としてきたヨーロッパ留学中・ヨーロッパ留学経験者がハンブルクに集結し、それぞれの留学を話しながらクリスマスを楽しむ、夏のナポリに続く第2回ヨーロッパ会がありました。



そこで聞いた話などをもとに考えたことを今月は書いていこうかなと思います。

まずやっぱり交換留学の自由度の高さは非常に面白かったです。語学を学ぶ語学留学や働くワーホリと違い、単に大学に通うだけの交換留学では自分の目的に合わせて多種多様な留学が送れるのかなと思います。

もうひとつ気になったのは留学経験のマイノリティです。日本において留学経験がある、というのが就職などで大きなメリットになる場合が多いと思います。その理由としては当然独自の経験を持っているというのが大きいと思います。留学に行く人がいまだに多くはない日本において、その経験があるというのがメリットとなっているわけです。裏返せば日本において多くの人は留学というものを経験していないということ。つまり経験者の感覚・考えが理解されない場合が多いということです。たとえ海外旅行に積極的に行っている人であっても留学した人の感覚は理解できない場合が多いと、個人的に思っています。旅行で行くのと海外で生活するというのは全く違う経験であるというのが、たった1年間ではありますがドイツで生活してきた感想です。

そのマイノリティの一種の例として、留学初期に私が言われて嫌だった言葉の話をしたと思います。ドイツに留学してると言った時に必ずと言っていいほど次に返ってくる言葉は一緒でした。

「え、じゃあドイツ語ペラペラにしゃべれるの？」

「もうドイツ語しゃべれるようになった？」

こういった言葉は大嫌いでした。私はドイツに留学はしていますが、語学をメインに学習をしているわけではありません。今ではそこに関して私は一切の後悔もありませんし、むしろいい留学だったと思えますが、当時の私はその言葉を聞くたびに「自分は間違ったことをしているのではないか」「留学を無駄にしているのではないか」と悩んだものです。

これから留学する人はこういった言葉は気にせず自分がしたいと思ったことをすればいいと思います。個人的な考えではありますが、後悔というものは間違えた選択肢の先にあるものではないと思います。選択肢には正解も間違いもなく、それを選んだ先で自分がどれだけ燃焼できるか、いわば全力になれるのかによって後悔するかしらないかが決まるのではないかなと思います。結局自分の決めた道に全力で挑むのがいいですね。

それでは今月はこの辺で  
さようなら